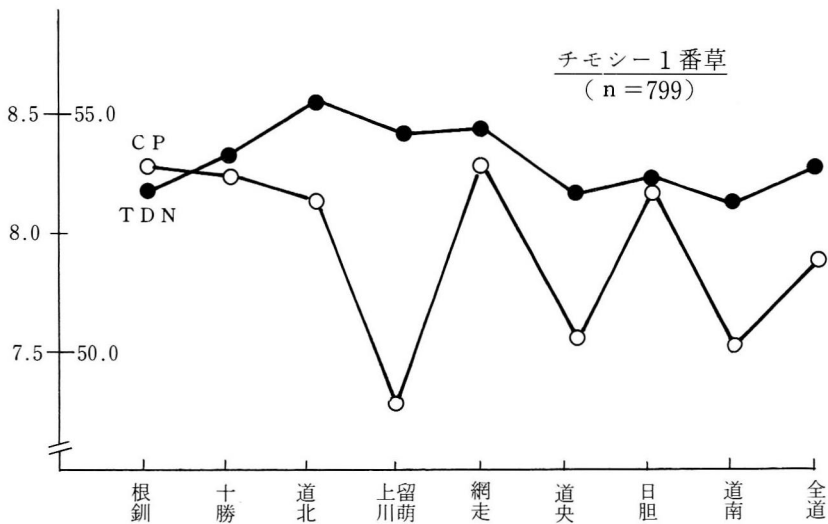
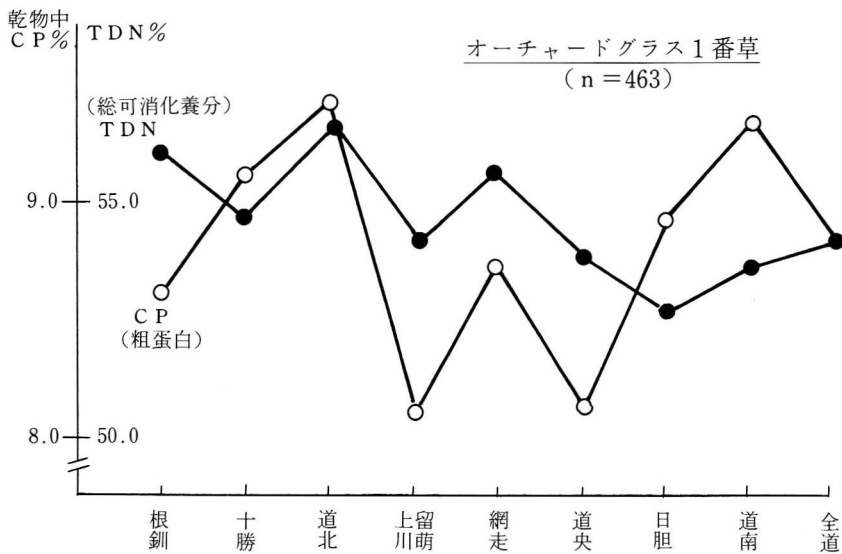


# 牧草と園藝



# 昭和58年産乾草の分析結果 (北海道)

雪印種苗 (株) 中央研究農場



58年産乾草の大きな特徴は、図をみてわかるように、オーチャードグラス、チモシーともかなり地域格差があるということです。成分的には蛋白の変動が大きく、オーチャードグラス、チモシーともに上川・留萌、道央地区の蛋白含量が全道平均より下回っているほか、チモシーにおいては道南地区も全道平均以下で注目されます。TDNについては、道東、道北地域で高く、道央、道南地域にかけて低くなる傾向を示しています。この傾向は、57年とほぼ同様です。

58年は、まれにみる異常気象下での粗飼料生産となったわけで、天候の影響を反映した分析結果と言えます。

水分の全道平均は、オーチャードグラス16.81%、チモシー16.17%であり、ミネラル含量については道央、道南地域のチモシーCa含量が低い傾向でした。